

「持続的な地域の元気づくり」を住民自治の力で実践

7つの地域で困りごとの洗い出し・解決と宝もの磨きを展開する地域協議会

「地域協議会」という組織、みなさんご存知ですか。平成26年7月から8月にかけて、合併前の旧町村ごとに7つの地域協議会が設置され、それぞれ地域課題の解決に向けて独自の取り組みを展開しています。産業振興や地域防災、福祉、教育など様々な分野にまたがり、協議会委員のみなさんが議論を積み重ね、活動を実践。これは、郡上市が今年度から政策推進の旗印として掲げている「観光立市郡上」の考え方も深く関わっています。

今月号では、「地域協議会」に焦点をあて、市の政策としての考え方や活動の内容などをお知らせします。



■125人が「住民自治」の担い手として活発に活動

郡上市では、平成26年3月に「郡上市住民自治基本条例」を制定。まちづくりの主人公である市民が、市長（市役所）や議会とともに、いつまでも住み続けられる郡上市を目指し、それぞれの役割分担や責務などを明確にしました。この条例の中に、「住民自治の推進組織」の設置を明記し、翌年度の地域協議会の設置へとつながりました。

地域協議会の委員数は、八幡地域協議会が20名、大和地域協議会が18名、白鳥地域協議会が16名、高鷲地域協議会が18名、美並地域協議会が18名、明宝地域協議会が20名、和良地域協議会が15名となっています。

自治会や公民館、地域づくり団体、企業などいろいろな分野から参加をいただいております。年齢は20代から80代まで幅広い層で構成されています。女性の比

率は24.8%となっています。

■今年度から地域協議会活動交付金を予算化し交付

地域協議会の設立当初は、各協議会とも全体での話し合いやグループに分かれて地域課題の整理、自由に意見やアイデアを出しを行うワークショップが中心となっていました。2年目以降は独自の实践活动が行われるようになってきました。

現在、それぞれの地域協議会が特色ある活動を展開しています。こうした動きをさらに高めることは、地域協議会の大きな目標である「住民自治」の推進につながっていきます。そこで郡上市では、今年度から地域協議会活動交付金として、7つの地域協議会合計で1,050万円を予算化しました。

■地域の課題解決を自らの手で実践することの意義

高鷲地域協議会の会長で、各

地域協議会の会長で構成する連携協議の座長を務める上村悟さんは、「地域協議会の活動交付金が予算化されたことで、地域の課題解決を行政に頼るのではなく、地域で暮らす私たち自らが力を合わせて行動することの大切さを改めて認識しています。交付金を有効に活用するため、市民のみなさんも地域協議会の活動に関心を持っていただきたい。それが、いつまでも住み続けたいと思える地域の実現につながっていくと思っています。」とその想いを話してくださいました。

■「やってみる」を試しながら活動の発展と継続へ

人口減少や高齢化が深刻化する中であって、住民同士で暮らしを支え合い、地域を元気にする取り組みが、これからの地域社会により強く求められます。

地域協議会は「自分たちの住む地域をこうしていきたい」という願いを地域のみなさんとともに実行していく組織でもありません。地域の課題を出し合い、情報を共有し、地域の課題解決に向けた方策をいろいろな人と共に考え、実際に事業に取り組んでみる。そして、地域協議会が地域のみなさんとともにやっ



白鳥地域協議会
 会長 上村 茂一
 つながりのある明るい地域づくりを実現
 ☎82- 3111

▲高速道路網とまちづくりをテーマにした研修会

白鳥地域協議会は、16人の委員が2つの委員会を組織し、産業や福祉教育を主な観点として活動しています。今年、白山開山1300年に呼応したウォーキングや移住者交流会、自治会やいきいきサロン等との交流、白鳥の特色の発信等を計画しながら、つながりのある明るい地域づくりを目指して取り組んでいます。



高鷲地域協議会
 会長 上村 悟
 交流人口の増加に向けた方策を展開
 ☎72-5111

▲吠高原の合宿誘致活動を積極支援

高鷲地域協議会は、自由闊達な意見交換をしながら地域の課題解決に取り組んでいます。今年度は、吠高原スポーツ広場のクラブハウス整備に合わせ、利便性を向上させるための道路整備について働きかけを行います。また、地域特産品や農林産物の販売所、観光案内所を併設した新たな道の駅の整備も検討を重ねていきます。



美並地域協議会
 会長 粥川 茂雄
 みんなが生き生きと暮らせるまちに
 ☎79-3111

▲グループに分かれ課題を整理・分析

美並地域協議会では、近い将来を見据えた地域課題を整理・分析し、その解決に向けた方向性を探るべく議論を重ねてきました。高齢化が進展する中、既に美並町の約3割の世帯が高齢者のみの世帯であるという現状を踏まえ、今年度からは、「高齢者が健康で生き生きと暮らし続けられるまち」を目指した取り組みを進めていきます。



明宝地域協議会
 会長 西脇 徳近
 手づくり自治の活動を積極的に実践
 ☎87-2211

▲道の駅明宝で「夏まつりを復活」(H28)

明宝地域協議会では、29年度も引き続き「明宝ファンクラブ」の拡大と「明宝ふるさと家族」の体験企画実施の取り組みを進め、さらに「未利用公共施設の利活用」、「I J Uターン推進に向けた情報発信」、「道の駅の機能強化」といった3つのテーマを掲げ、20名の委員が3つの部会に分かれて、「手づくり自治」を実践していきます。



和良地域協議会
 会長 池戸 信夫
 元気で楽しい地域を目指して活動展開
 ☎77-2211

▲高齢者の地域見守り活動を支援

和良地域協議会では「和良の宝」「和良の仲間」の2つの部会を作って地域課題に沿った活動をしています。安心安全な暮らしができるよう高齢者等地域見守り活動を支援し、また地域の宝を守るための環境整備やイベント計画などの支援をしています。今後も明るく元気で楽しい地域を目指し活動を行っていきます。



八幡地域協議会が主催して7月1日に開催した「城下町コン」。様々な団体と連携して実践したイベントです。当日は、多くの参加者で賑わいました。

◎地域協議会について詳しくは、各振興事務所振興課（八幡地域は市長公室企画課地域振興担当）へお問い合わせください。

てみたいことを試し、その成果を共有しながら活動を発展させていく。こうした流れが地域協議会の中で生まれつつあります。

それぞれの地域で工夫をしながら活動を展開することにより多くのみなさんが、地域協議会とつながることを期待しています。



八幡地域協議会
 会長 尾田 孝夫
 公民館を単位とした住民主体の地域づくり
 ☎67-1121

▲地域おこし協力隊と意見交換

八幡地域協議会では、人口減少の抑制と地域の活性化を目指して9つの地域づくり組織（公民館単位）で取り組んでいます。例えば植栽、間伐等の環境整備事業（市街地）、移住定住促進のためのPR動画作成（相生）、Uターン者や移住者との融和を願った農業祭（口明方）等を実施予定。本会では城下町婚活事業等を実施しています。



大和地域協議会
 会長 金古のり子
 つながりと夢を大事にして活動
 ☎88-2211

▲約250名が参加した愛マップ説明会

大和地域協議会では、未来を担う子どもたちと共に歩む明るく元気なまちを目指して、「つながり」と「夢」を大事に活動しています。その一つがひまわりプロジェクト。大和中学校と連携してひまわりでいっぱいのもちづくりを進めています。地域で助け合い、誰もが安心して暮らせるまちを願い、つながり支え愛マップの作成も手掛けています。